

様式 A-1

平成29年 7月 28日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 筑波大学附属駒場高等学校・多尾奈央子
2. 講師氏名: HARVEY, Paul 博士
3. 同行者氏名: _____
4. 実施日時: 平成 29年 7月 18日 (月) 10:30 ~ 12:20
5. 参加生徒: 高校2年生 12人
備考: 教科「課題研究」講座で英語講座を選択した生徒
6. 講演題目: (英文) Computing Science
7. 講演概要:
 - ・Scotland
 - ・English Language
 - ・Examples of different computers
 - ・Computing Science (Problems / Possibilities / Jobs)
 - ・Computing Science (different jobs and opportunities)
 - ・Why be a computing scientist
 - ・My Work: Finding better ways of programming
 - ・Examples – Lagrangian Particle Dispersion Modelling
 - ・Many different types of computing
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1) 講演時間 90 分 質疑応答時間 30 分
 - (2) 講演方法: プロジェクター使用による講演 および 研究内容に関する実験
 - (3) 通訳: なし
 - (4) 事前学習時使用教材事前にいただいた講義の概要と、用語集をプリントにまとめて生徒に配布。
10. 学校からの支給経費(該当がある場合):
11. その他特筆すべき事項:

様式 A-4

JSPS サイエンス・ダイアログ アンケート(参加校の先生)

1. 本事業に参加した理由を教えてください。
「課題研究(英語講座)」で英語発表技術および科学的知識を高めるため。

2. 事前打ち合わせについて
コミュニケーション方法を教えてください。(複数回答可)

- 1) メール
- 2) 直接講師と

* 打ち合わせた内容: 時間・内容・使用機器について

3. 生徒は、講演における英語をどの程度理解できたと思いますか？
 おおむね理解できた。

4. 講演における研究関連についての説明の難易度はいかがでしたか？
 ちょうど良かった。

5. 事前学習は行いましたか？

行った

具体的な内容: 講師の先生からいただいた講義の概要および研究に関連する語句をプリントにまとめて各生徒に配布し、当該分野について事前に確認しておくよう促した。

6. 今回の講演によって、生徒にどのような効果があったと思いますか？

ご自身の出身国のことも研究内容についても、わかりやすく丁寧にお話をしてくださり生徒の理解度も高かったようです。スコットランドの国の成り立ちなど、直接研究には関わらないことにも生徒は興味を持って聞くことができました。プログラミングについて、実際に手を動かして実感できる活動を実践してくださり、よく理解できたと思います。理解度が高かったために、一部の生徒はより具体的な専門的な内容に踏み込んで欲しそうでしたが、そのような生徒には今後自ら学ぶ刺激を与えてくださったものと思います。

7. 全体として、今回の講演はいかがでしたか？

良かったです。

良かった点、良くなかった点を具体的に教えてください。

報告書に記述の通り。

8. 何かお気づきの点や感想などがありましたら、お書きください。
やはり実演や実験があると生徒の理解度は特段に上がります。

9. 再度、本事業を活用したいと思いますか？

是非活用したい